

## 【小樽間税会会長賞】

### 「払う税」「使われる税」

小樽市立西陵中学校 二年

板垣 ひなた

消費税、所得税、法人税、酒税など税金には様々な種類がある。でも、その税金がどのように使われ、どのような形で私たちの生活に役立てられているのか、大人でも知らない人は多いと思う。これから、身近な税金の使い道について考えていきたい。

例えば、すべての小・中・高等学校などには、学校図書館という施設があるはずだ。また、大人ならば、公立図書館を利用している人も少なくないだろう。それらは、無料で本を借りることができる非常に便利はサービスだ。しかし、なぜ本を無料で借りることができるのだろうか。調べたところ、それらの本は全て税金を使って買っているのだ。誰もが一回は行ったことがある図書館は、たくさんの方が払っている税のおかげで成り立っているとも言える。このように考えると、私はたくさんのお金を買うことができたり、図書館で多くの人に読まれる本を並べられたりする「税」は素晴らしいと思った。

このように、「払う税」は思い浮かぶものの「使われる税」についてはすぐに思い浮かばないと思う。けれども、税金はみなさんが思うよりもっと身近にあって、私達の生活を支えてくれている。今回紹介した図書館以外にも、中学校までの教育費や医療費、年金などの社会保障などにも使われている。

しかし、私たちが大人になる頃やその後は税金が重くなるとされている。

例えば、年金で考えてみると二〇〇〇年では、一人当たり三・六人の働き手で支えられていた。しかし、二〇五〇年になると、一人当たり一・三人の働き手で支えられることになるそうだ。この原因は、日本の少子高齢化だと考えられている。

このような状況が続くとすると、「払う税」に多く注目されてしまい、大切である「使われる税」への理解が足りなくなってしまう。税金は、使い道が大切だと思う。

私は、この作文を書くために税に関するものをたくさん調べた。その時に、税にはたくさんの種類があり、それらは色々なものに変化して私たちの生活を支えてくれていることを知った。しかし、調べて知識にするだけで終わらずに、日常生活に目を向けてみることで、より税が身近に感じられると思う。

税は色々な物に化けている。それらを見つけ出し、みなさんの「本物の知識」として、税を日常生活の一つに取り入れてみてはどうだろうか。